

冬期湛水・不耕起水稻栽培により 豊かな生態系を形成

— 生物多様性保全機能 —

つづはら
(有) 甘原ええのお



地区に生息する在来のメダカ
(甘原地区ビオトープ内)

平成8年度から始まったほ場整備を契機に、平成10年に集落営農組織(有)甘原ええのおを設立、低農薬、減化学肥料による安全で安心なこだわりの農産物を栽培、販売している。

水田約7haのうち約25aでは農薬・化学肥料を一切使わない冬期湛水・不耕起水稻栽培を実践している。

その水田は、特に土壤動物や微生物も豊富で豊かな生態系を形成している。



岐阜県多治見市

〔有機性廃棄物分解〕

秋から翌年の稲刈り前まで水を張る冬期湛水・不耕起水稻栽培により、水中への酸素供給を行うとともに窒素固定を行う藻類のサヤミドロが発生、また、イトミミズが頭を土に入れ土の中の有機物や微生物を食べ尾部を土の表面に出して糞を排出する働きによって、植物プランクトンの栄養分の窒素やリンが増加している。

〔生物多様性の保全〕

植物プランクトンとそれを食べる動物プランクトン(メダカやオタマジャクシなどの餌)が増加し、小魚やカエルが増えると、それをサギなど水鳥が食べる。このような「食物連鎖」により多くの生き物が集まり豊かな生態系を形成している。収穫された米は、ブランド米「耕さない田んぼのお米」として販売されている。



不耕起栽培のお米



「イトミミズ」のえさとなる米ぬかを散布し、土壌を改良



不耕起栽培の水田を訪れるサギ



冬期湛水中(不耕起栽培の水田)



不耕起水稻栽培の田植え
(前年の株が残ったところに田植え)



サヤミドロ



不耕起栽培の水田及び畦畔の生き物たち
(左: 水田のサヤミドロの間を泳ぐ在来のメダカ、
右: 畦畔際のシュレーゲルアオガエルの卵塊)



※冬期湛水・不耕起水稻栽培とは、秋の収穫後から春の代かきまでの間、田んぼに水を張った状態で管理し、耕起・代かきを行わないで栽培する農法

東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら

《 有限会社 甘原ええのおHP 》

<http://tduhara.com/>

東海 1

令和2年12月更新